

乳がんにおける経済的負担ってどのくらいかかるの？

目次

1. 乳がんとは（病態と症状）
2. 乳がん罹患することでおこる経済的負担と労働損失
3. 予防のための生活習慣、早期発見のための検診が大切

1. 乳がんとは

<病態>

乳がんは乳腺の組織にできるがんで、多くは乳管から発生しますが、一部は乳腺小葉から発生します。

40歳後半から乳がんと診断される可能性が高くなります。

また、男性にも発生することがあります。男性も、女性と同様に多くは乳管からがんが発生します。

※男性の乳がんは希少であり、乳がん全体の約1%を占めるといわれています。あらゆる年齢の男性に発生しますが、発症者が多いのは60～70代の年代です。

<症状>

主な症状：

乳房のしこり、乳頭から（血の混ざった）分泌物が出る、乳房の痛み、など

乳がんは自分で見つけることのできるがんの1つですので、月1回程度のセルフチェックで、自分の乳房の状態を把握し、病気の变化がないか確認することも良いことです。

2. 乳がん罹患することでおこる経済的負担と労働損失

◇乳がんにかかったときの費用

乳がん病期	1入院費用(円)	1日単価(円)
ステージ0	819,910	111,645
ステージⅠ	720,225	105,236
ステージⅡ	746,082	99,147
ステージⅢ	875,342	89,389
ステージⅣ	845,421	87,902

進行度と広がりが大き



※公益社団法人全日本病院協会「疾病別・重症度別入院医療費の平均（2022年度（1月～3月）急性期グループ）より

これらの費用は医療費の総額で、窓口負担は保険等の適用により原則3割（負担割合は所得、年齢により異なる）となります。

◇がん全体で言うと、年額の平均自己負担額は86万円（内訳は直接費用が入院36万円、外来41万円）と費用がかかると言われています。

◇がんは、直接的な医療費に加え、治療中の一時的な就業中断による労働力からの離脱によって、社会にも大きな経済的負担を引き起こします。

そして、労働損失が最も大きかったがんは、女性は「乳がん」で約 2,326 億円です。
 (男性で労働損失が一番大きかったのは肺がんで約 921 億円です。)



女性のがんのなかで最も一般的なのは乳がんであり、さらに働き盛りの世代での罹患が多いため、直接医療費だけでなく労働損失が大きな影響を与えていると推測されています。

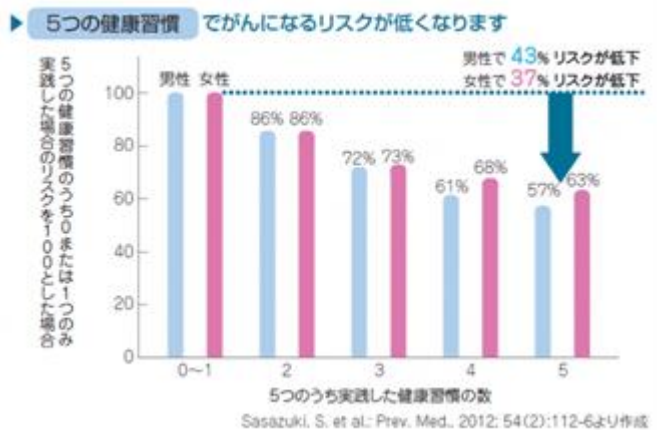
3. 予防のための生活習慣、早期発見のための検診が大切

<予防のための生活習慣>

これは乳がんだけにかぎらず多くのがんに言えることですが、生活習慣の改善はがん予防につながります。



※国立がん研究センターがん予防・検診研究センター予防研究グループ
 科学的根拠に基づく良がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン策定に関する研究
http://epi.ncc.go.jp/can_prev/



<早期発見のための検診>

健康は最も貴重な資産の一つです。

特に、乳がんは女性にとって最も一般的ながんの一つであり、**検診による早期発見が将来を左右する重要な要素**となりますので定期的に乳がん検診を受けましょう。

<参考文献>・国立がん研究センター「日本人における予防可能ながんによる経済的負担は 1 兆円超え (推計)」・厚生労働省 第3次対がん総合戦略研究事業「がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担の在り方に関する研究」2012 年度報告書・国立がん研究センターがん情報サービス がんを知る 301 「科学的根拠に基づくがん予防」・国立がんセンター希少がんセンター「男性乳がんについて」